

# 2025年12月期 決算説明資料



セントラルフォレストグループ株式会社

証券コード： 7675



## 1. 2025年12月期 決算

1 – 1. 2025年12月期実績

1 – 2. 2026年12月期計画

## 2. 長期戦略について

2 – 1. 長期戦略（第1次）の振り返り：2021年12月期～2025年12月期

2 – 2. 長期戦略（第2次）について：2026年12月期～2030年12月期

## 3. トピックス 他

# 1. 2025年12月期 決算

# 1 - 1. 2025年12月期実績

# 2025年12月期 連結業績実績



売上高、各利益ともに過去最高を更新

(単位：百万円)

	2024年12月期 通期実績	2025年12月期 通期実績	増減額	前年同期比
売 上 高	3 4 8, 0 7 4	3 6 6, 0 6 0	+ 1 7, 9 8 6	+ 5. 2 %
営 業 利 益	2, 8 1 7	3, 0 4 3	+ 2 2 6	+ 8. 0 %
経 常 利 益	3, 1 4 4	3, 4 2 8	+ 2 8 3	+ 9. 0 %
当期純利益	2, 2 5 0	2, 4 4 8	+ 1 9 8	+ 8. 8 %

※当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を表示

# 2025年12月期 売上高実績 (単位：百万円)



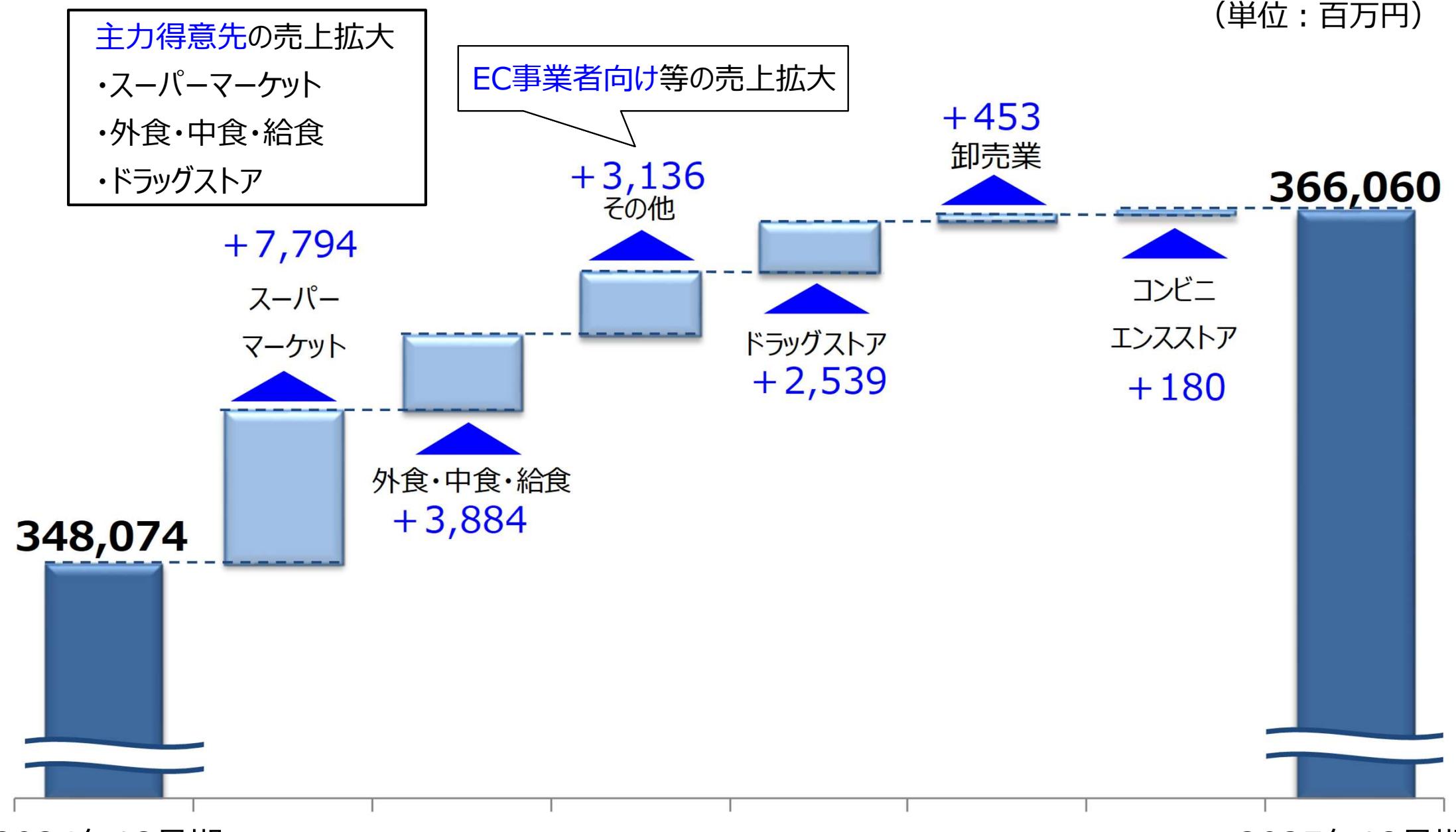
チャネル別売上高	2024年12月期 通期実績	2025年12月期 通期実績	構成比	前年同期比
スーパー・マーケット	137,838	145,633	39.8%	+5.7%
外食・中食・給食	59,198	63,082	17.2%	+6.6%
コンビニエンスストア	49,555	49,735	13.6%	+0.4%
ドラッグストア	47,149	49,688	13.6%	+5.4%
卸売業	36,647	37,101	10.1%	+1.2%
その他	17,686	20,819	5.7%	+17.7%
合計	348,074	366,060	100.0%	+5.2%

カテゴリー別売上高	2024年12月期 通期実績	2025年12月期 通期実績	構成比	前年同期比
製品	4,851	5,006	1.4%	+3.2%
加工食品	164,103	172,182	47.0%	+4.9%
酒類	82,002	88,186	24.1%	+7.5%
チルド冷凍	74,515	77,456	21.2%	+3.9%
非食品	8,057	7,745	2.1%	△3.9%
その他	14,544	15,483	4.2%	+6.5%
合計	348,074	366,060	100.0%	+5.2%

# 2025年12月期売上高の増減要因



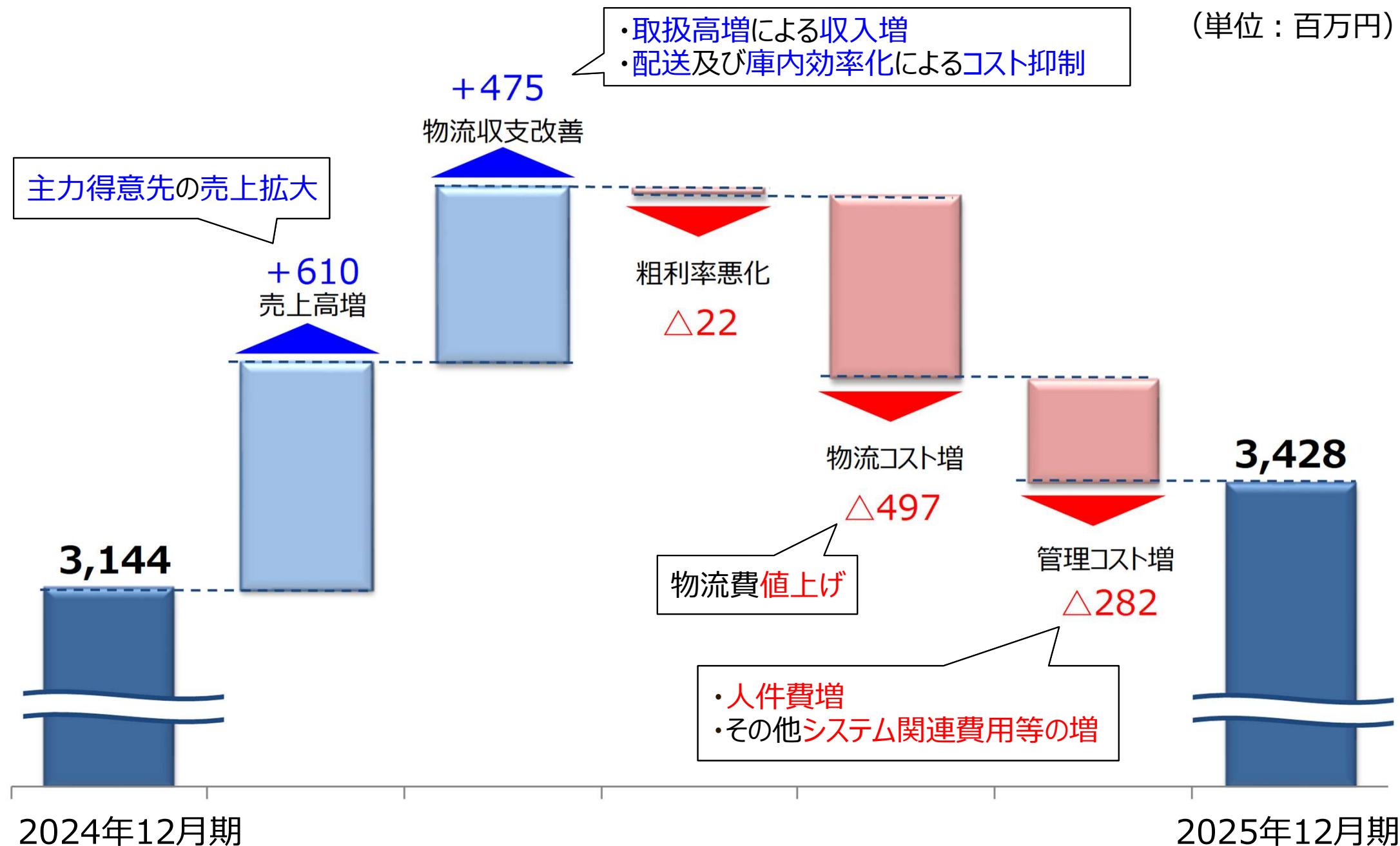
(単位：百万円)



# 2025年12月期経常利益の増減要因



(単位：百万円)



# 1 - 2. 2026年12月期計画

# 2026年12月期 連結業績予想



(単位：百万円)

	2025年12月期 通期実績	2026年12月期 通期予想	増減額	前年同期比
売 上 高	3 6 6, 0 6 0	3 7 3, 0 0 0	+ 6, 9 3 9	+ 1. 9 %
営 業 利 益	3, 0 4 3	3, 0 5 0	+ 6	+ 0. 2 %
経 常 利 益	3, 4 2 8	3, 4 5 0	+ 2 1	+ 0. 6 %
当期純利益	2, 4 4 8	2, 3 5 0	△ 9 8	△ 4. 0 %

※当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を表示

# 2026年12月期 チャネル別売上高予想



(単位：百万円)

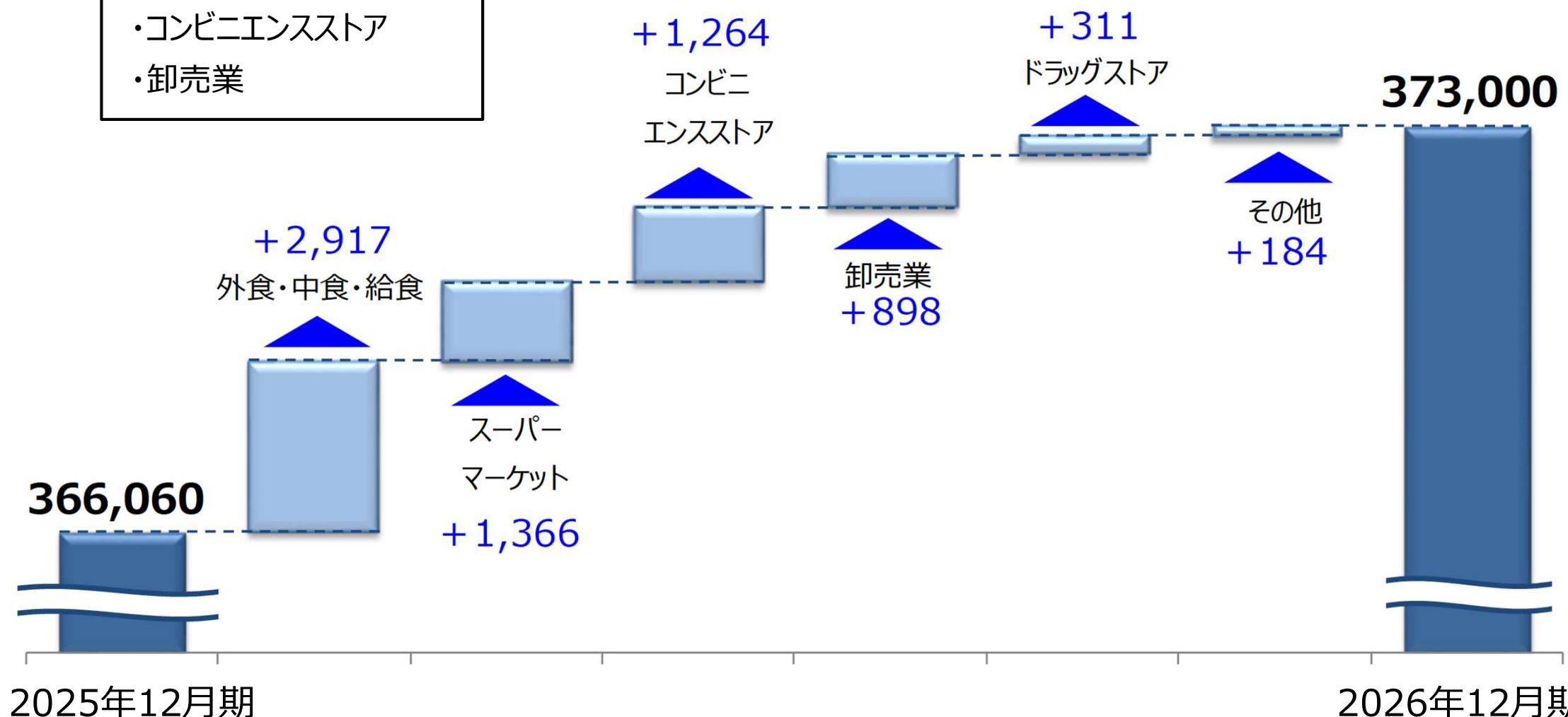
	2025年12月期 通期実績	2026年12月期 通期予想	構成比	前年同期比
スーパー・マーケット	145, 633	147, 000	39. 4%	+ 0. 9%
外食・中食・給食	63, 082	66, 000	17. 7%	+ 4. 6%
コンビニエンスストア	49, 735	51, 000	13. 7%	+ 2. 5%
ドラッグストア	49, 688	50, 000	13. 4%	+ 0. 6%
卸 売 業	37, 101	38, 000	10. 2%	+ 2. 4%
その他の	20, 819	21, 000	5. 6%	+ 0. 9%
合 計	366, 060	373, 000	100. 0%	+ 1. 9%

# 2026年12月期売上高の増減要因



(単位：百万円)

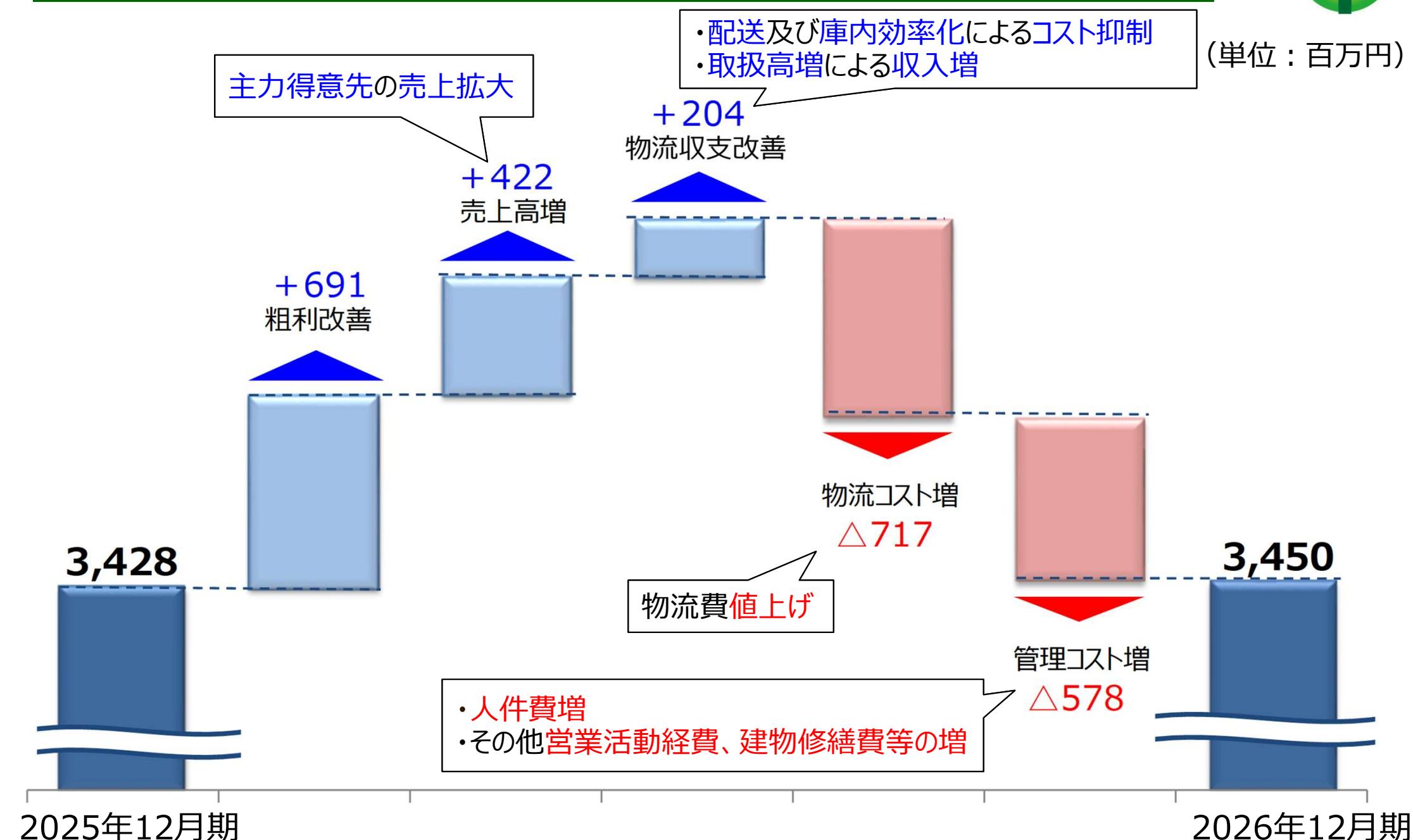
主力得意先の売上拡大  
・外食・中食・給食  
・スーパー・マーケット  
・コンビニエンスストア  
・卸売業



# 2026年12月期経常利益の増減要因



(単位：百万円)



# 配当 (2025年12月期配当・2026年12月期配当予想)



	2025年12月期	2026年12月期 (予想)
中間配当金	30円／株	32円／株
期末配当金	32円／株	32円／株
年間配当金	62円／株	64円／株

配当性向

20.7%

22.3%

純資産配当率

1.5%

—

株主に対する利益還元を経営の重要な政策の一つとして位置づけており、  
2025年12月期の年間配当金は、当初予想に比べ1株当たり2円増配  
2026年12月期の年間配当金は、前期に比べ1株当たり2円増配を予定

## 2. 長期戦略について

## 2 - 1. 長期戦略（第1次）の振り返り (2021年12月期～2025年12月期)



## アクセル2025

### 新しい時代における最適流通の創造

～顧客と地域を支える信頼度No.1グループへ～

#### アクセル

食の最適流通を牽引し、価値を創造し続けるために、グループ一丸となって加速し、前に進む

#### 新しい時代

新型コロナをきっかけとして生活者の意識や行動、企業活動の在り方や世の中が大きく変化する時代

#### 最適流通の創造

川上から川下まで食の流通全域で全体最適を実現し、新しい価値を創造する

#### 顧客と地域

得意先・メーカー・仕入先・物流委託先様、従業員（その家族）・地域（その生活者）等、ビジネス・業務に関わる全ての企業・地域・人

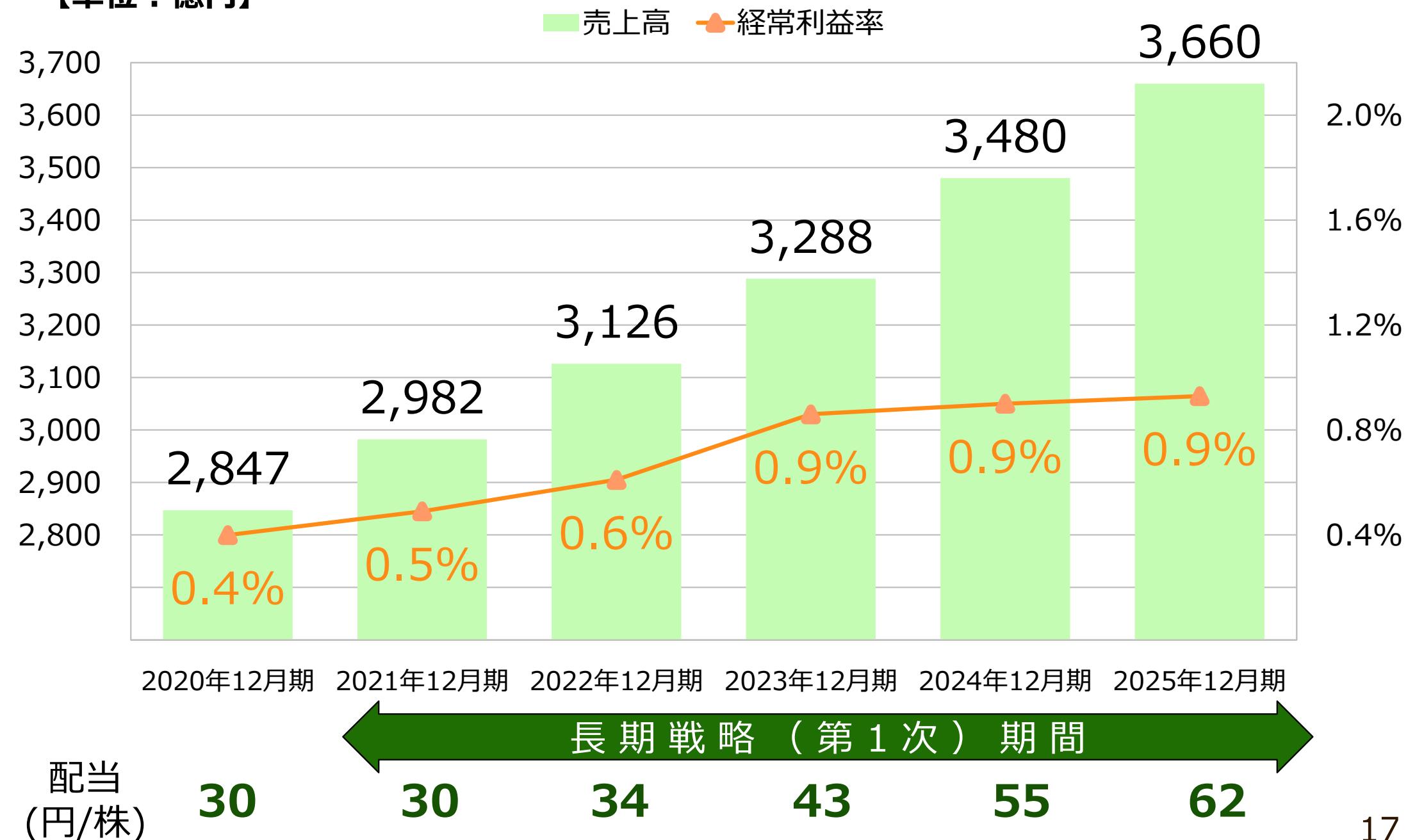
#### 信頼度No.1

関係する企業・地域・人が抱える課題を最初に相談してもらえる、最も頼りにしてもらえる存在

# 長期戦略（第1次）～売上高・経常利益率の推移～



【単位：億円】





## トーカン・国分中部・国分グループとの協業

- ◆ 鉄道系売店の商品供給・一括物流を受託(2023年3月取引開始)
- ◆ 国分フードクリエイト(株)中部エリアの低温事業譲り受け・三温度帯フルライン機能強化(2021年7月)
- ◆ 物流センター相互活用により物流コストを削減

## 共創の取り組み

- ◆ 三給株式会社をグループ化(2021年4月株式取得)
  - …給食市場への参入、及び中食・惣菜向けの売上を拡大
- ◆ 地域共創の取り組み(自治体、地元事業者・学生との取り組み)
  - …地域の課題解決と新たな価値を創造(地域の特産品を活かした商品開発・販路開拓など)

## 基幹システムの共通化

- ◆ グループ内の基幹システムを共通化(2023年10月共通化完了)
  - …業務運用の整理、バックオフィス業務等の業務効率化・品質向上に取り組むとともに、システム共通化によるメリットを最大限に発揮

## サステナビリティの取り組み強化

- ◆ CFGサステナビリティ委員会発足(2024年3月)

## 2-2. 長期戦略（第2次）について (2026年12月期～2030年12月期)



- 長期戦略(第2次)では、長期ビジョン2030として『「卸」を変える。』を掲げます。
- 食の最適流通を牽引し価値を創造し続けるために、4つのグループ重点方針をグループ一丸となって推進します。



## CFGグループビジョン

私たちは食の最適流通を目指して「流通の森」を創造し、最も信頼される地域密着の卸グループとして、お取引先様と社会の発展に貢献していきます。

## 長期ビジョン2030

### 「卸」を変える。

～ 食をめぐる流通の変化を変革の機会と捉え、挑戦し続けます。  
そして、変革の流れを止めることなく、  
流通の未来と私たちの成長をともに切り拓いていきます。～

## グループ重点方針

- ① 流通の森の実現に向けたアライアンスの推進
- ② 未来志向による成長領域の拡大
- ③ 卸機能の高度化と仕事のスマート化
- ④ サステナビリティと事業の融合



## 長期ビジョン 2030

# 「卸」を変える。

～ 食をめぐる流通の変化を変革の機会と捉え、挑戦し続けます。  
そして、変革の流れを止めることなく、  
流通の未来と私たちの成長をともに切り拓いていきます。～

### ①卸のビジネスモデルを変える

食品・酒類卸の低利益率という長年の課題に加え、物流問題等によるコスト増という新たな構造変化に直面している。一方、消費者・ライフスタイルの変化、テクノロジーの進化を変化の要素として取り入れ、新たな成長領域を拡大させることで収益性の高いビジネスモデルに変える。

### ②各個人並びに会社の成長を切り拓く

個人の成長と会社の成長を互いに加速させ合い、卸の新たな価値創造に繋げる。



## グループを取り巻く環境と重点方針

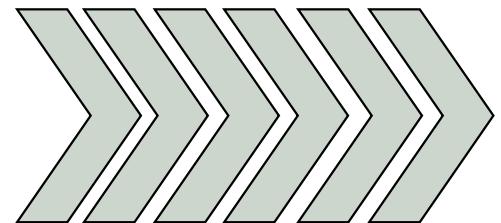
### 環境変化サマリ

国内の胃袋の減少と  
消費者ニーズの変化・多様化  
(海外市場への期待)

競争の激化と  
共創時代の到来

テクノロジー活用による  
競争力の格差拡大  
(問屋の存在価値)

事業継続が困難となる  
リスク要因の増加



環境変化は  
変革の機会  
(チャンス)

### グループ重点方針

流通の森の実現に向けた  
アライアンスの推進

未来志向による  
成長領域の拡大

卸機能の高度化と  
仕事のスマート化

サステナビリティと  
事業の融合

## ① 流通の森の実現に向けたアライアンスの推進

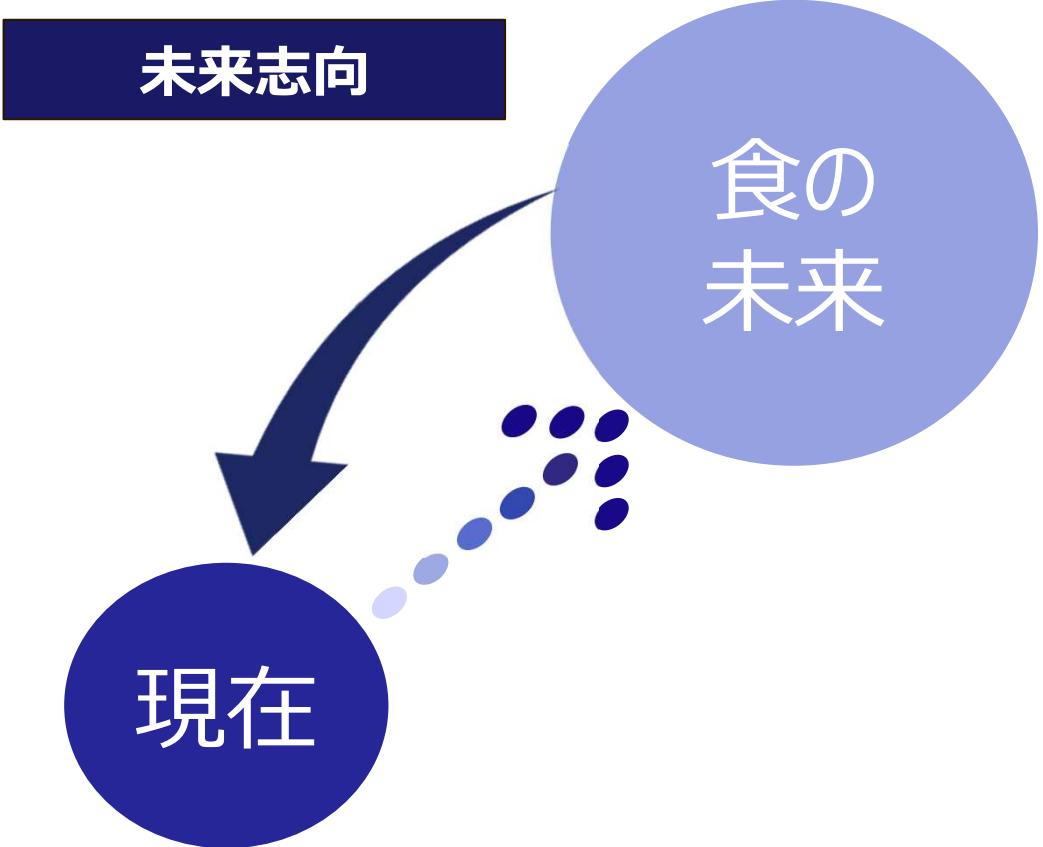
卸、メーカー、小売、物流業者など食の流通に同じ想いをもつ企業とのアライアンスを推進することで、流通の森の実現を加速。

### <食品流通の流れ>



## ② 未来志向による成長領域の拡大

既存の事業領域や慣習にとらわれず、食の未来を形作る多様な可能性に目を向け、未来志向（バックキャスト）で考え、次の新たな柱となる事業・取り組みによって成長領域を拡大する。





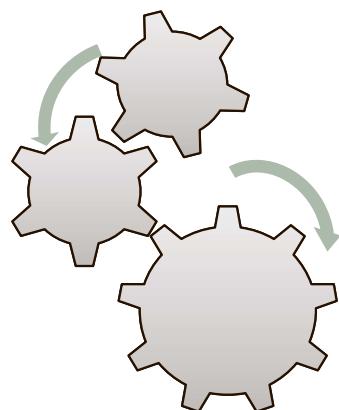
## ③ 卸機能の高度化と仕事のスマート化

卸機能の高度化：

卸売業が果たすべき「機能」

そのものを高付加価値化する。

- サプライチェーン最適化
- 付加価値サービス拡充



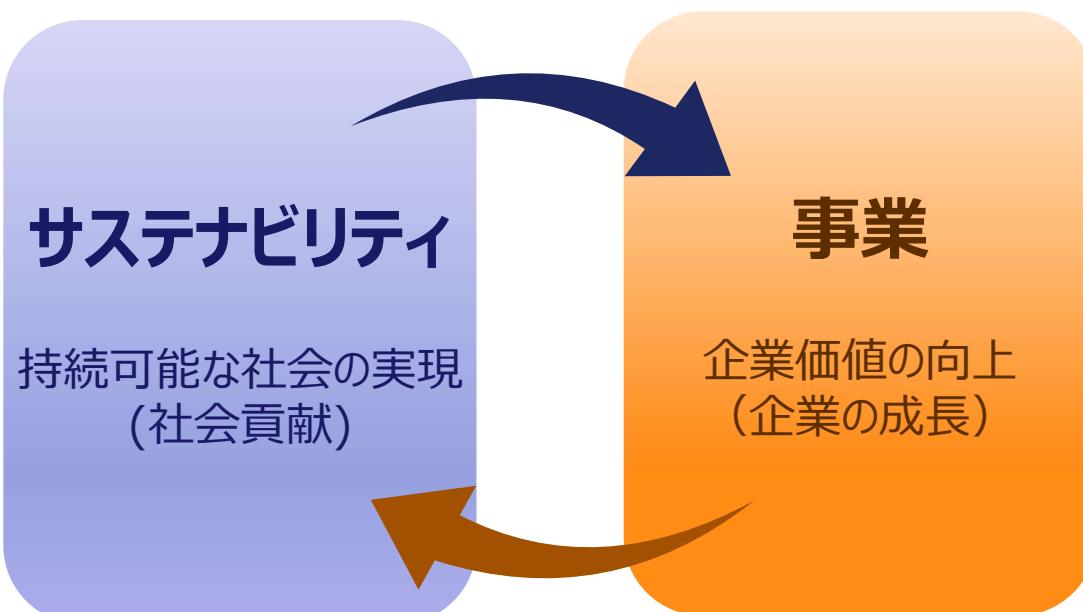
仕事のスマート化：

「業務プロセスのデジタル化・自動化」により、業務を省力化・効率化し、戦略的・創造的な業務にシフトする。



## ④ サステナビリティと事業の融合

“食”を通じてさまざまな社会課題解決にチャレンジし、持続可能な社会の実現（社会貢献）と企業価値の向上（企業の成長）を同時に追求する。





## サステナビリティ宣言

私たちは地域密着の卸グループとして  
“食”を通じてさまざまな社会課題解決にチャレンジし  
笑顔あふれるサステナブルな未来の実現に貢献します

### 重要事項（マテリアリティ）

#### 重要事項 1 地球環境

- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・プラスチック廃棄物の排出抑制

#### 重要事項 3 サプライチェーン

- ・流通にかかるエネルギー使用量の効率化・改善
- ・食品ロスおよび食品や食品以外の廃棄物削減

#### 重要事項 5 生活者

- ・災害時や緊急時における食糧品調達と供給体制の整備
- ・すべての生活者に食を中心とした快適な買い物の場を届ける

#### 重要事項 2 食糧生産

- ・環境・社会に配慮した食糧資源の持続的な利用
- ・持続的に食糧資源を利用し、健康的で生産者が元気になれる新しい食への挑戦をおこなう

#### 重要事項 4 マーケティング

- ・さまざまな情報をインテリジェンス化しバリューチェーンで活用する
- ・生活者が楽しみながら食の理解を深められる活動を実践する

#### 重要事項 6 人財

- ・持続的な成長のための次世代リーダー育成
- ・ダイバーシティを定着させ、コーポレートガバナンスの保たれた経営体制を構築するとともに、多様な価値観を持つ人材の育成を行う



長期戦略(第2次)期間中において **累進配当** を実施します。

## 【当社の配当方針】（下線部が変更箇所）

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置づけ、収益力の向上と安定した配当を継続してまいりたいと考えております。

**2026年12月期から2030年12月期までの長期戦略（第2次）期間中においては、**  
**株主の皆様のご期待に応え続けるべく、利益成長に合わせて配当を維持または増配**  
**していく累進配当を実施いたします。**

また内部留保につきましては、企業体質の強化と今後の事業展開のための資金として活用してまいります。

※ 2026年12月期の中間配当より適用します。

### 3. トピックス 他

# トピックス① 地域共創の取組み



## 愛知県名古屋市

- ・2025年2月、「名古屋グランパス」と2025年シーズンのパートナー契約を締結
- ・7月と10月には試合会場でブースを出展
- ・11月には共同開発したクラフトジン「Up Draft Gin」を発売



## 三重県松阪市

- ・発地型エリアキャンペーン事業を受託
- ・松阪フェアの開催や記事配信を通して魅力を伝え、関西の観光客を松阪市へ誘致



## 石川県能登エリア

- ・能登の食品メーカーの商品をECサイトへ出品
- ・復興イベントの開催



# トピックス②「STATION Ai」活用:新規事業創出と既存強化



2025年7月 オープンイノベーション拠点「STATION Ai」へ入居（トーカン）

## STATION Ai について

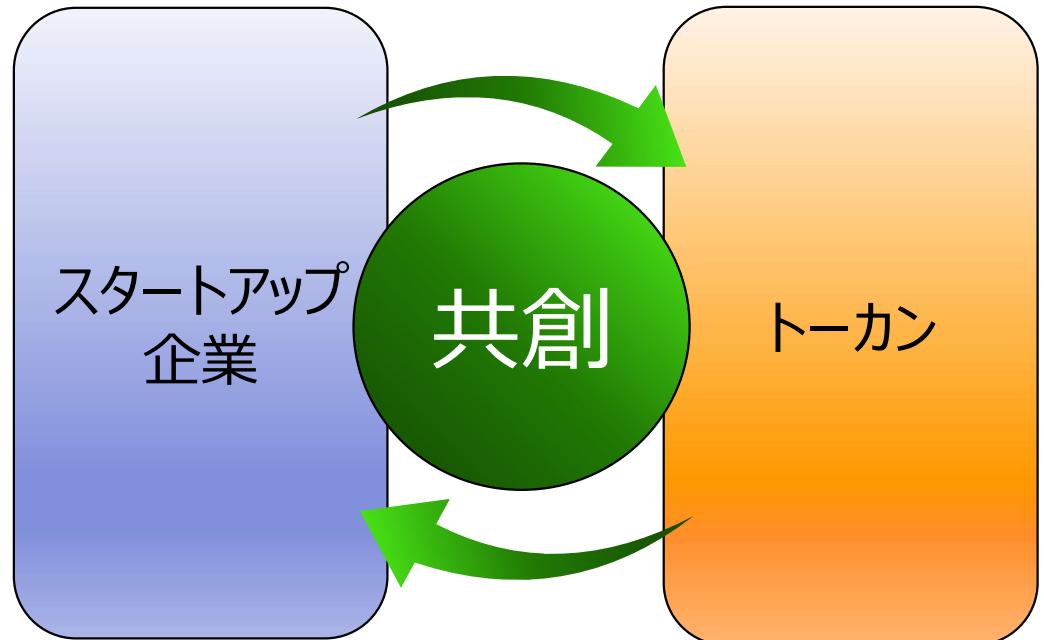
- ・国内最大級のオープンイノベーション拠点
- ・新事業創出とスタートアップ育成を促進
- ・約1,000社の企業・VC・大学等が参画



©STATION Ai

## 入居の目的

- ・スタートアップとの交流、機能の活用
- ・新たな事業領域の探索、開拓
- ・既存事業の付加価値向上



「STATION Ai」（名古屋市昭和区） 館内の様子

# トピックス③省人化・自動化への取組み

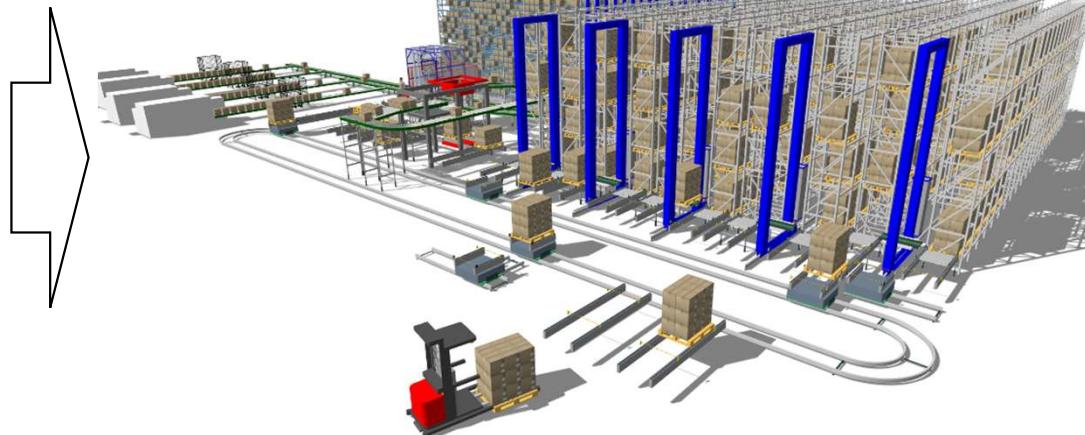


2026年10月予定 物流センターへの自動倉庫導入（トーカン）

現状



自動倉庫（鳥瞰図）



物流センター（愛知県小牧市）

## 目的

- ・継続的な倉庫運営
- ・作業品質の安定化
- ・コストの抑制

## 自動化

入荷

検品

保管

補充

仕分け

積付け

仮置き

出荷

# トピックス④株主優待制度の拡充・IR情報の充実



## 株主優待制度の拡充

- ・ 継続保有期間を1年から半年に短縮。
- ・ クオカードを廃止し、全て当社グループ商品に統一。また、年間贈呈金額を増額。



継続保有期間	保有株式数	基準日	優待内容
半年以上(※)	1,000株以上	6月30日 12月31日	中間・期末いずれも <b>3,000円</b> 相当の 当社グループ商品
	1,000株未満 500株以上	6月30日 12月31日	中間・期末いずれも <b>2,000円</b> 相当の 当社グループ商品
	500株未満 100株以上	<b>12月31日</b>	<b>2,000円</b> 相当の 当社グループ商品

※ 基準日の当社株主名簿に同一の株主番号で  
2回以上連続で記載または記録されている場合

## 株主総会・名証IRセミナーのアーカイブ配信、HPの充実

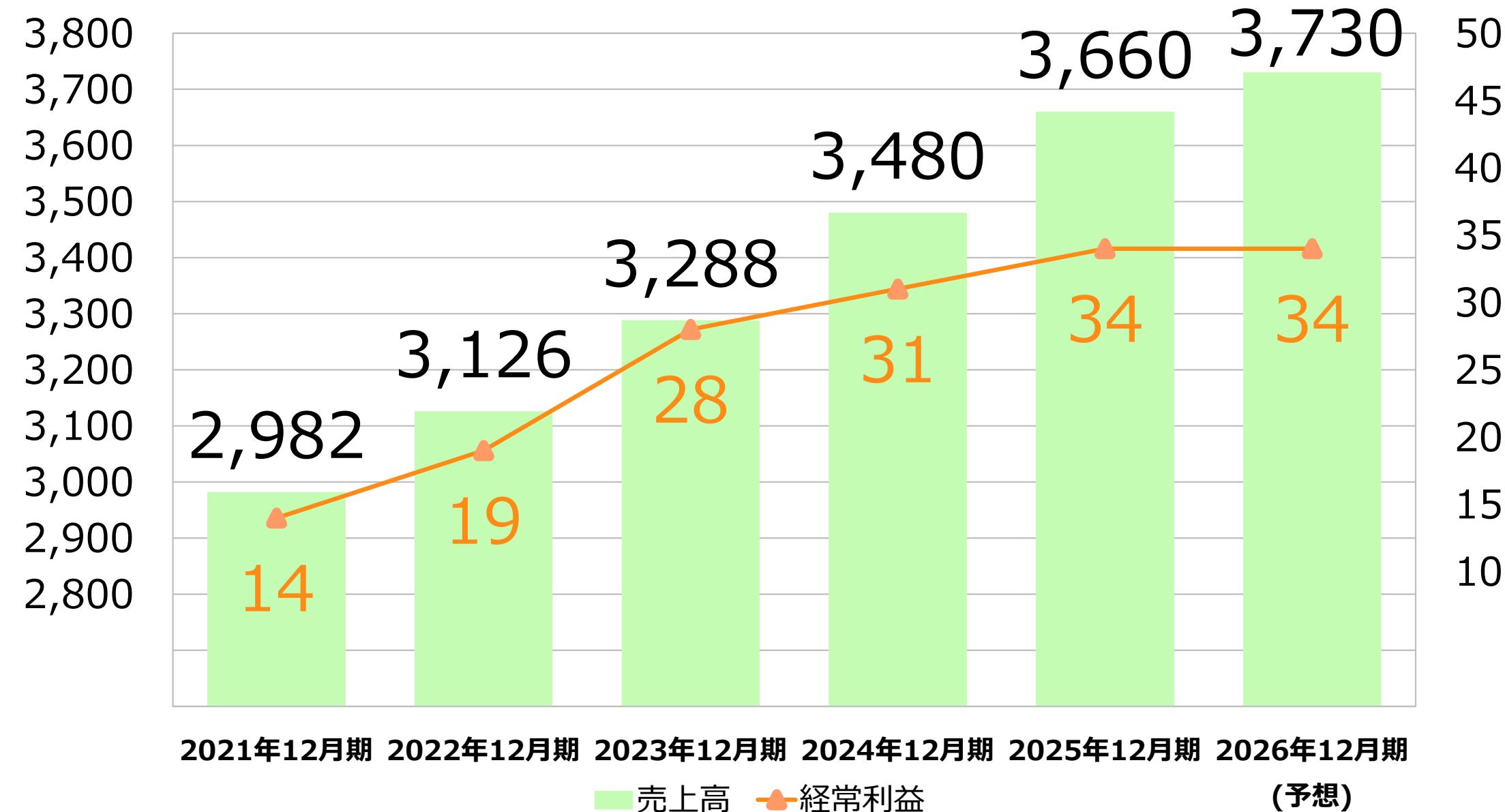
- ・ 定時株主総会や名証IRセミナーin名古屋の動画をホームページへ掲載。
- ・ 当社ホームページへサステナビリティや事業会社の情報を掲載予定。



# 連結業績（売上高・経常利益）の推移



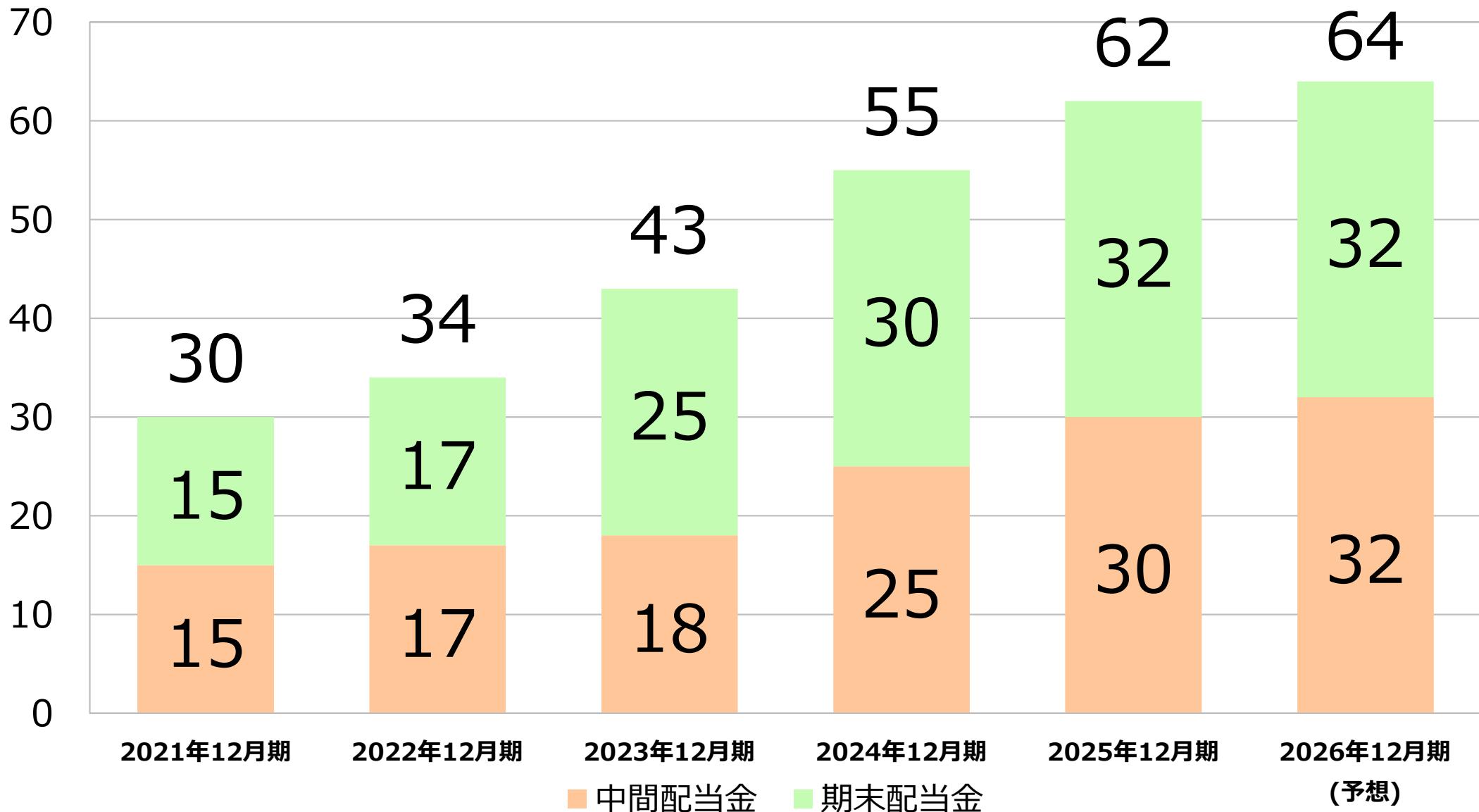
【単位：億円】



# 1株当たり配当金の推移



【単位：円】



# 設備投資（2025年12月期実績・2026年12月期計画）



(単位：百万円)

	2025年12月期 実績	2026年12月期 計画
設備投資額	1, 031	1, 211

※設備投資額は有形固定資産のほか、無形固定資産への投資も含めて記載しております。

## 主な設備投資

### [2025年12月期 実績]

- ・物流センターの自動化設備投資及び倉庫管理システム更新 371百万円  
(うち建設仮勘定 243百万円)
- ・株式会社トーカン本社建替え用土地購入 127百万円

### [2026年12月期 計画]

- ・物流関連 1, 001百万円  
物流センターの自動化設備投資及び庫内機器・設備更新
- ・製造関連 105百万円  
製造工場の製造機能・品質向上及び設備維持・更新

# 2025年12月期 決算説明資料



セントラルフォレストグループ株式会社

証券コード： 7675